

茶病虫害防除情報

令和3年12月3日

【第23号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

令和4年地区茶栽培暦（防除暦）について

県内各地区の令和4年茶栽培暦改定検討会は終了しました。今回の改定では今年の病虫害の発生や防除上の問題が比較的になく、また新規登録農薬や輸出茶の残留基準設定追加も殆どなかったことなどから改定は少ないでした。しかし、ネオニコチノイド系薬剤の安全性や環境への影響問題報道やチャノホリガ防除剤の薬剤感受性低下問題などで南薩地区ではやや多い改定となりました。地区茶栽培暦を4パターン(南薩地区米国輸出茶栽培対応版、日置地区台湾輸出茶栽培対応版、北薩地区一般茶栽培版、始良・曾於・肝属地区一般茶栽培版)に整理しました。栽培暦の概要と防除をすすめる上での考え方を少し解説します。

1 栽培暦の概要と防除進め方

○ **炭疽病**・・・梅雨期になる二・三番茶期の補完と秋芽生育期基幹防除が設定されていますが、今後一番茶を重視した生産や更新園増加のため秋芽生育期防除が重要になると思われます。二・三番茶期の萌芽ー1葉期はダニール1000、銅水和剤(輸出茶)で防除されますが、最近増加しているドリンク茶栽培では摘採を遅らせるため摘採葉への発病を防ぐためダニール1000にEBI剤を低濃度で混用して散布すると上手く防除出来ます。基幹防除の秋芽生育期は従来萌芽ー1葉期と3ー4葉期の体系防除でしたが、新たに開発されたダニール1000とEBI剤との混用による3ー4葉期1回散布法はかなりの地区で採用・普及してきました。新梢枯死症、網もち病などにも体系防除より安定して高い防除効果が得られます。なお、混用3ー4葉期散布は萌芽後最初の降雨から12日後頃を目途に散布することが最適です。

○ **輪斑病(新梢枯死症)**・・・高温時に発生しやすい病害で、主に三番茶摘採後のカシノボルトー散布が基幹防除となっていますが、摘採・整枝直後に散布を要するため現場ではかなり防除が難しいようです。この時期の防除は秋芽生育期の新梢枯死症発生にも大きく関与しますので、大切な防除です。

○ **網もち病**・・・最近発生が増加している病害で、多発生すると被害が大きいので、注意を要します。主要感染時期は秋芽生育期後半の8月下旬～9月中旬頃で、多湿条件で感染します。今年も8月下～9月に湿潤な天候が多かったためかなり多発しています。防除は秋芽生育期の炭疽病などの体系防除法、混用防除法でも効果を示しますが、さらに1週間後4ー5葉期に銅水和剤を散布すると効果的です。銅水和剤は本病に効果が高く、有機栽培でも2ー3回散布で上手く防除出来ます。

○ **カンザワハダニ(サビダニ類)**・・・最近ハダニの発生は減少傾向で、大きな被害は少なくなりました。これは、現在使用殺虫剤の選択性が大きく、カブリダニ類など天敵への影響が少なく、天敵の活動が活発なためと思われます。主要発生期の春期の発生も少なくなり、従来重要な防除時期であった秋期の発生は顕著に少なくなり、栽培暦採用もなくなりました。代わりに更新園等で8月頃、秋芽生育期に発生が多くなりました。更新園の発生は、葉の切除で一時的に葉層内の天敵密度が低下するためと思われます。防除は春越冬後増殖期に残効性の優れるダニゲッターフロアブルなどによる基幹防除は重要です。また、更新園等の秋芽生育期防除の必要性も高まり、ハダニの全ステージに有効な速効性のダニハラフロアブル、マイコネフロアブルなどによる補完防除が薦められます。サビダニ類の発生は一番茶後から二番茶期に一時的、極部的に発生

しています。春越冬後のダニゲッターフロアブルによるダニとの同時防除で対応しますが、発生が多い場合は一番茶摘採後などにサマイトフロアブルを散布すると効果的に防除できます。

○ **チャノミドリヒメヨコバイ** **チャノキイロアザミウマ**・・・茶の害虫では収量、品質に最も被害が大きく、また発生期間も二番茶期から秋芽生育期まで長期にわたり発生するため年 4-5 回の基幹防除がすすめられています。防除薬剤も抵抗性発現等を考慮し、系統の異なる剤を配置した防除となっています。二番茶期ウラ DF、三番茶期ネコノイト系のスタークル顆粒水溶剤、ジアミト系のエクシブル SE、テツパン液剤、秋芽生育萌芽期にコツフロアブル、グレイシア乳剤、3-4 葉期にガンバ水和剤などが概ね固定化されています。

○ **チャノコカクモンハマキ** **チャハマキ**・・・最近発生は穏やかな状態で、一番茶後、二番茶後、秋期に発生みられますが、被害は少ないようです。特に防除を要するのは秋期発生で、各地区とも秋芽生育初期のグレイシア乳剤、コツフロアブルなどによる体系基幹防除や 9 月(第 4 世代)のアファーム乳剤、ディアナ SC による補完防除で対応されています。ハマキ天敵の使用は少なくなり、ハマキコン N はロープ製品になり南薩地域の一部で普及が進んでいますが、何れも広面積一斉処理が必要と思われます。

○ **チャノホソガ**・・・二・三番茶期に発生すると製茶品質に影響し、2019 年頃からは南薩地域の一部で薬剤感受性低下のため多発生し、被害が問題になりました。二番茶期は被害が大きいため、ディアナ SC、IGR 系剤のファルコンフロアブル、カスケード乳剤、ジアミト系剤のサムコルフフロアブルなどで防除がすすめられていますが、萌芽後の新芽への産卵、潜葉幼虫を確認し防除することが効率的です。また、薬剤抵抗性発現が地域により異なりますので、地区栽培暦採用薬剤で防除します。

○ **クワシロカイガラムシ**・・・発生は最近かなり少なくなり、枝条枯死、樹勢衰弱、茶葉黄化などの被害は著しく少なくなりました。これは選択性殺虫剤の使用などによりコバチ類、タマハエなど天敵類の活性化の影響と持続効果の優れるフルート MC の普及効果が高いためと思われます。第 1、3 世代などの幼虫ふ化最盛期防除の必要性はかなり低下してきました。

○ **チャトゲコナジラミ**・・・県内殆どの産地に発生が拡大し、被害が心配されましたが、乱舞による作業性への影響や煤病発生などの発生程度の高い状況は少なくなりました。スペシャル天敵シルバーストリコバチの分布拡大、定着による影響が大きいと思われます。薬剤防除も第 1 世代幼虫期アプロードエースフロアブル、第 3 世代ガンバ水和剤などによる他主要害虫との体系同時防除の効果も大きいようです。

○ **その他マイナー病害虫**・・・赤焼病の発生は極局部的発生で、少ない状態が続いています。今後多発生の懸念は少ないと思われます。マダラカサハラムシの発生は増加傾向で、秋芽生育初期の他害虫との同時防除の必要性は高まってきました。モギエダシク、ミムシ類の発生も局部的にみられています。

2 令和 3 年新規登録農薬、登録内容変更について

殺菌剤	カスシホルター	使用時期	14 日前	2 回	500~1000 倍	(輪斑病 赤焼病)・・・変更
	スター水和剤	抗生物質	1000 倍	7 日前	2 回	赤焼病・・・新規登録
	クミガード SC	銅剤	500 倍	前日	—	炭疽病 もち病 赤焼病・・・新規登録
殺虫剤	アクトア顆粒水和剤	マダラカサハラムシ	アファームエクセラ顆粒水和剤	チャノコカクモンハマキ	チャノホリガ	
	チューンアップ顆粒水和剤	チャノホリガ	・・・適用拡大	アドマイヤ顆粒水和剤	・・・登録失効	

3 輸出相手国(米国)の農薬残留基準値(MRL)の新規設定状況

スター顆粒水和剤 (15ppm) アファーム乳剤 (0.5ppm) グレイシア乳剤 (5ppm)

令和4年度一般茶栽培地域向け体系 (栽培暦)

◎基幹防除、○補完防除、●臨機防除

月旬	茶期	防除時期	対象病害虫	防除薬剤 (希釈倍数)	
				(始良・曾於・肝属 地区)	(北薩・出水 地区)
2月		越冬期	○クワシロ	ブルートMC (1000倍) (始・肝)	ブルートMC (1000倍)
3月上 下	一番茶	増殖開始期	◎ハダニ ◎ハダニ・サビダニ	ハ ^ロ ックフロアブル(2000倍) (始・曾) ダ ^ニ ゲッターフロアブル (2000倍)	ダ ^ニ ゲッターフロアブル (2000倍)
		萌芽前	◎ハマキムシ類	ハマキコン N (30-50m) (始)	ハマキコン N (30-50m)
		萌芽期	○ハダニ(多発生園)	ダ ^ニ サラハ ^フ ロアブル(1000倍) (始・肝)	ダ ^ニ サラハ ^フ ロアブル (1000倍)
4月					
5月上 中 下	茶後	第1世代幼虫発生期	◎○クワシロ・チャトゲ	ア ^フ ロート ^エ スフロアブル (1000倍)	ア ^グ リメック (1000倍)
		第1世代若齢幼虫期	◎○ハマキムシ類	ハマキ天敵 (2000倍)	ハマキ天敵 (2000倍)
	二番茶	萌芽-1葉期	◎ウンカ・スリップス ◎○ホソガ ◎○炭疽病・黒葉腐病 (強調)	ウ ^ラ DF (1000倍) (始) (肝) エ ^ク シレル SE (2000) (曾) カ ^ス ケート ^ラ 乳剤 (4000倍) (始・肝) ダ ^コ ニール 1000 (1000倍)(700倍)	ウ ^ラ DF (1000倍) サ ^ム コ ^ル フロアブル (4000) ダ ^コ ニール 1000 (1000倍)
		摘採直後	○輪斑病		ア ^ミ スター 20 フロアブル (2000倍)
6月中 7月	三番茶	萌芽-1葉期	◎ウンカ・スリップス・ホソガ ○炭疽病・黒葉腐病	ス ^タ ークル顆粒水溶剤(2000倍) (曾) エ ^ク シレル SE (2000) (肝) テ ^ッ パン液剤 (1000倍) (始) ダ ^コ ニール 1000 (1000倍)(700倍)	ス ^タ ークル顆粒水溶剤(2000倍) ク ^ワ ロシール ^ト (500)
		最終摘採直後	◎輪斑病	カ ^ス ミンボ ^ル ト ^ー (1000倍)	カ ^ス ミンボ ^ル ト ^ー (1000倍)
		三番茶摘採後等	○ウンカ・スリップス・ホソガ		ガ ^ン バ ^水 和剤 (1000倍)
8月上 中 下	秋芽生育期	萌芽-1葉期	◎ウンカ・スリップス・マダラ ハマキムシ ハダニ ◎炭疽病・新梢枯死症	グ ^レ シア乳剤 (2000倍) (肝) コ ^テ ツフロアブル (2000倍) (始) ガ ^ン バ ^水 和剤 (1000倍) (曾)	コ ^テ ツフロアブル (2000倍) ダ ^コ ニール 1000 (1000倍)
		伸育期	○ハダニ等(更新園等多発生園)	マ ^イ ト ^コ ネフロアブル (1000倍) (肝)	マ ^イ ト ^コ ネフロアブル (1000倍)
		3-4葉期	◎ウンカ・スリップス・チャトゲ ハダニ	ガ ^ン バ ^水 和剤 (1000倍) (始・肝) ア ^グ リメック (1000倍) (曾)	グ ^レ シア乳剤 (2000倍)
			◎炭疽病・網もち病・新梢枯死症	ダ ^コ ニール 1000 (1000倍) + イ ^ン ダ ^ー フロアブル(8000倍)(3種混用)	ホ ^リ ーワ ^ン フロアブル(2000倍)
3-4葉期 7日後頃	○網もち病	ク ^ワ ロシール ^ト (1000倍) (始) コ ^サ イト ^ー (1000倍) フジ ^ト (500倍)	ク ^ワ ロシール ^ト (1000倍)		
	若齢幼虫期	○ハマキ・ホソガ・シャクトリ	デ ^ィ ナ SC (5000倍)	デ ^ィ ナ SC (5000)	
11月上		秋整枝後	○ハダニ チャトゲコナジラミ	ア ^グ リメック (1000倍) (肝)	ア ^フ ロート ^エ スフロアブル(1000倍)

令和4年度輸出茶栽培地域向け体系 (栽培暦)

◎基幹防除 ○補完防除 ●臨機防除

月旬	茶期	防除時期	対象病害虫	防除薬剤 (希釈倍数)	
				米国輸出地域 (南薩地区)	台湾輸出地域 (日置地区)
2月		越冬期	○クワシロ	ブルートMC (1000倍)	ブルートMC (1000倍)
		初発確認時	●赤焼病	カスシホルター (1000倍)	
3月上 一番 下茶		増殖開始期	◎ハダニ・(サビダニ)	タニケッターフロアブル (2000倍)	タニケッターフロアブル (2000倍)
		萌芽期	○ハダニ(多発生園)	タニサラハフロアブル (1000倍)	
		萌芽-1葉期	◎カメムシ・アブラムシ	コルト顆粒水和剤(2000倍)	
5月上 茶後	一	第1世代幼虫発生期	◎○クワシロ・チャトゲ	アプロートエスフロアブル (1000倍)	アプロートエスフロアブル (1000倍)
		第1世代若齢幼虫期	○ハマキムシ類	ハマキ天敵 (2000倍) 又は ハマキコンN・ロープ (30-50m)	ハマキ天敵 (2000倍)
5月中 下 番茶	二	萌芽-1葉期	◎ウンカ・スリップス	ウララ DF (1000倍) + デアナ SC (5000倍)	ウララ DF (1000倍) + カスケート乳剤 (4000倍)
			○炭疽病・黒葉腐病	クプロシールド (500倍) 又は ダコニール 1000(1000倍)輸出不可	ダコニール 1000 (1000倍)
6月中 下 7月下 番茶	三	萌芽-1葉期	◎ウンカ・スリップス・ホソガ	アグリメック (1000倍)	エクシレル SE (2000倍)
			○炭疽病・黒葉腐病	クプロシールド (500倍) 又は ダコニール 1000 (1000倍)輸出不可	ムッシュホルター (500倍)
		最終摘採直後	◎輪斑病	カスシホルター (1000倍)	カスシホルター (1000倍)
7月	四番茶 更新園 萌芽期				
8月上 中 秋 芽		萌芽-1葉期	◎ウンカ・スリップス・マダラ ホソガ・ハマキムシ・チャトゲ	グレーゾ乳剤 (2000倍)	コテツフロアブル (2000倍)
			○炭疽病・新梢枯死症	フロンサイト SC (2000倍)	ダコニール 1000 (1000倍)
8月下 生 育 期		3-4葉期	○ハダニ(更新園等多発生時)		アグリメック (1000倍)
			◎ウンカ・スリップス・マダラ チャトゲ・ハダニ	コテツフロアブル (2000倍)	カソハ水和剤 (1500倍)
		3-4葉期混用散布法 (殺菌剤2種殺虫剤混 用散布法)	○炭疽病・網もち病	インターフロアブル (5000倍)	インターフロアブル (5000倍)
9月上 中		3-4葉期7日後頃	◎ウンカ・スリップス・チャトゲ 炭疽病・網もち病・新梢枯死症		カソハ水和剤 (1500倍) + ダコニール 1000 (1000倍) + インターフロアブル (5000倍)
		○網もち病	クプロシールド (1000倍)	クプロシールド (1000倍)	
9月中		若齢幼虫期	◎ハマキムシ・ホソガ・チャトゲ	アファーム乳剤 (2000倍)	デアナ SC (5000倍)
11月上		秋整枝後	○チャトゲ	アプロートエスフロアブル (1000倍)	アプロートエスフロアブル (1000倍)

備考 (始)・・・始良地区 (曾)・・・曾於地区 (肝)・・・肝属地区